

宛先



ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 93

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成30 (2018)年 9月12日

都市空間専門部会活動報告 1

7月15日の13:30から、さがクリークネットの主催により「クリエイティブ・ディスカッション 水辺とまちづくり」と題した講演会ならびに討論会が行われました。

講演会は2部構成で、第1部の冒頭ではさがクリークネット会長の川崎氏による佐賀市のクリーク現状と活用構想を皮切りとして、笠真希博士、フランシェ ホーイメイヤー博士 (オランダ・デルフト工科大学)、後藤隆太郎博士 (佐賀大学工学部) によってオランダならびに佐賀におけるクリークの成り立ち、利用方法などが講演されました。第2部では両国のクリークを比較しつつ、クリークと共存しつつ、魅力的な街づくりを行えるかが議論されました。

多くの方が参加されたこともあり、さまざまな質問や意見が寄せられました。その中には、佐賀のクリークの成り立ちについてご存じの方も多くおられ、その一方でクリークの魅力を伝えられるよう活動されている方からの意見もあました。多岐の視点から意見交換をもとに、これからは市民のみならずクリークへの関心を持ってもらうことが結論の一つとして得られました。このような活動が今後の佐賀の発展へ寄与することが期待されます。



講演会の様子

都市空間専門部会活動報告 2

前日に引き続き、7月16日にはフランシェ ホーイメイヤー博士を講師としてお招きし、佐賀大学の研究者および学生との研究懇談会が開催されました。冒頭の講演ではオランダの水路の役割や防災計画について、特に「レジリエンス」「協調的計画」「自然に依拠する解法」など、現代的な論点から解説がありました。

後半の議論では、同国は国土全体が低平地に立地し、永年に渡り水との戦いが繰り返されてきたこと。その歴史の中から現在の合理的な治水管理や水辺の市民利用が生まれてきたこと。また、オランダと佐賀の差や、同国の優れている文化をどのように佐賀へ活かせるかなど、参加者を交えて有意義な議論がなされました。昨今の課題である防災や気候変動、また、水辺利用の各視点からのさらなる研究が期待されます。

低平地研究会 刊行物のお知らせ

研究会機関誌の「低平地研究 No.27」と歴史・文化専門部会の活動成果の一つとして、「古文書に見る鍋島直正の藩政改革(二)」と題した書籍が発行されました。会員の皆様へは無料で配付しています。ご要望がありましたら、低平地研究会事務局までご連絡ください。



低平地研究に関する豆知識 -その 26-

「軟弱地盤と木」

木は杭や胴木基礎として使うことができます。最近では、軟弱な砂地盤の液状化対策で使用されています。木はテーパ形状で、周辺地盤の水分を吸収して杭周囲の土を強くする効果があり、杭基礎として有利な特徴を持っています。加えて、木は地下水位以深では腐ることなく長期間荷重を支えることができます。地下水位以深では空気が無いので、腐る原因となる腐朽菌が生きられない環境にあるからです。身近な事例では、佐賀城石垣の梯子胴木（はしごどうぎ）が挙げられます。江戸初期に建設されてから400年もの間、石垣を支え続けていたことが確認されていることからわかるように、条件を整えば数百年にわたり使用し続けることができます。低平地沿岸部は地下水位が高いうえに地盤が柔らかく施工しやすいので、木を使うにはとても都合が良い条件となります。

さらに、木は大気中の二酸化炭素を吸収して成長しますので、木を使うと二酸化炭素を固定することになります。軟弱地盤の対策で木を使えば、長期にわたって地中に二酸化炭素をストックすることになります。温室効果ガスの排出抑制や人工林整備が必要な我が国においては、これは極めて重要な効果といえます。今は木を積極的に使わなければならない時期に来ています。大量利用が可能な土木・地盤分野での使用量の拡大や新技術の開発が期待されています。

(佐賀大学理工学部 末次大輔)

環境専門部会 活動案内

環境専門部会が下記の要領で講演会を開催致します。みなさまのご参加をお待ちしています。

題目：世界の低平地～気候変動によるナイル川水系及びエジプトデルタの水問題

講師：Dr. Sameh Ahmed Kantoush

京都大学 防災研究所附属 水資源環境研究センター准教授

会場：佐賀大学理工学6号館2F 多目的セミナー室

日時：10月1日（月）16:00～17:30

低平地技術に関する国際シンポジウム

ISLT 2018 開催案内

下記の要領で国際シンポジウムが開催されます。

日時：9月26日～28日

場所：ベトナム ハノイ

Thuyloi University (175 Tay Son, Dong Da Dist, Hanoi, Vietnam)

参加費：450ドル

ウェブサイト：<http://islt2018.tlu.edu.vn>

会員
動向

特別会員

佐賀市企画調整部

地下に眠る佐賀の宝「三重津海軍所跡」。この場所が「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録されて3年が経過しました。県内唯一の貴重な資産である「三重津海軍所跡」の存在を再認識し、楽しみながらその価値を学んでもらうため、9月24日（月）に現地イベントを開催します。内容は「佐賀北高校吹奏楽部の演奏」「寄席」「おほしんたろうトーク&ダンス」「世界遺産クイズ」「パネル展示」など。皆様の御来場をお待ちしています。



三重津ドック 犬

LTI ジャーナル Vol 20、No. 1 の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol.20、No.2 は「Green Technology for sustainable Infrastructure Development」と題した特集号として発行されます。

タイトル
<i>Building with the on-site manufacturing process</i>
<i>LEED building project management in Thailand</i>
<i>Preparation of anionic-exchange membranes composites for acid recovery from acidic wastewater</i>
<i>Environmental impact evaluation of road pavements using life cycle assessment tool</i>
<i>Fate and transport of paraquat dichloride in corn and rubber plantation soils</i>
<i>Comparison of fate and transport of atrazine in corn and rubber plantation soils</i>
<i>Research oriented ground improvement projects in Changi, Singapore</i>
<i>Laboratory evaluation of biosolids stabilized with demolition wastes as an embankment fill material</i>
<i>Load test of pre-cast geopolymer concrete slabs</i>
<i>Weakly singular BIEM for analysis of cracks embedded in symmetric elastic whole space</i>
<i>Strengthening of RC members using post-tensioned metal straps: state of the research</i>
<i>Prioritizing rural roads projects in north-eastern Thailand by Analytical Hierarchy Process (AHP)</i>
<i>Raw water reserve and conveyance capacity of West Water Canal of Metropolitan Waterworks Authority</i>
<i>Assessing the climate change impact on floodplain inundation map in the Chiang Mai municipality, upper Ping river basin of Thailand</i>
<i>Assessment of water balance using SWAT – A case study of the Nakhon Ratchasima Province</i>
<i>Submerged breakwaters design development based on artificial oyster reef</i>
<i>Uplift of very sensitive soft clay due to pile driving</i>

編集後記

今年は極めて厳しい夏でしたが、過ぎてしまうと淋しい気もします。

編集：三島（佐大:sk9822@cc.saga-u.ac.jp）武富、後藤

事務局 TEL/FAX：0952-28-8712